

考える力を中核とした読む力・書く力の育成

輪島市立町野小学校

1 事例の概要

本校の児童は、基礎学力調査の結果から、細かい点に注意して文章を正しく読む能力や、要旨をまとめたり、考えを書いたりする能力が不足していることがわかった。このことから「読む力」とどまらず、「書く力」や特に「考える力」と関連した部分に課題があると考えた。これは、PISA型読解力の求める方向とも一致している。そこで、読解力に焦点をあて、「考える力を中核とした読む力・書く力の育成」をめざして研究を進めることとした。

本校では、PISA型読解力の特徴に対応するために、文章や資料を単に読むだけでなく、考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたりする活動を大切にしたいと考えた。そして、国語科を中心に各教科や学校の教育活動全体を通して、考える力を中核とした読む力・書く力の育成に取り組んだ。研究組織としては、授業研究推進部、読書活動推進部、全校的活動推進部の3つの部会を設け研究を進めた。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 授業研究の推進

① 「7つの指導のねらい」に沿った授業の改善

授業研究では、文部科学省の読解力向上プログラムに示された「指導の改善の方向」の共通理解を図り、各教科・領域にわたって「7つの指導のねらい」に沿った授業の改善に取り組んだ。特別な授業をするのではなく、普段の授業を「7つの指導のねらい」に沿って改善することが大切だと捉えて実践してきた。

② 「読解力に関わる年間指導計画」の作成

「7つの指導のねらい」を、どの単元でどのように扱うかについて学年毎に年間指導計画を作成し、学校としての指針を整理した。

(2) 読書活動の推進

- ・「読書の質や幅の広がりを目指した活動」として、授業の中での読書活動への取り組み、読み聞かせの実施、ブックボックスの設置などをおこなった。
- ・「読書の習慣化を図る活動」として、朝読書と家族読書の取り組みをおこなった。
- ・「児童の読書傾向を捉え、読書指導の改善に活かすための活動」として、読書記録、読書のめあてなどに取り組んだ。

(3) 全校的活動の推進

① 読解力向上リテラシータイムの実施

毎日、午後1時45～55分までの10分間を、「リテラシータイム」として日課表に位置づけ、漢字・計算を中心に基礎的な学力の向上に取り組んだ。さらに読む力・書く力を向上させるために、毎週金曜日を「読解力向上リテラシータイム」として特設した。

② 学年発表……音読、朗読、詩の発表、言葉遊び等

③ 全校テストの実施

B-1 「7つの指導のねらい」




B-2 読解力の指導に関する年間計画

B-3 読書活動の推進例




B-4 読解力向上リテラシータイム問題例

3 指導の実際

第3学年 社会 「どこで買うの、そのわけはなんだろう」

【改善の方向】 ウ (ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成	
【読解力向上に向けた授業改善の視点】 本時では、多様なテキストの1つとして、写真やビデオの読み取りを取り入れた。小売店の写真やビデオを見て、既習のスーパーマーケットの事例と比較しながら、その工夫に気付くようにしたい。	
【テキスト】	《写真》
	
魚屋	肉屋
	《ビデオ》
	
	小売店の人に対するインタビューや、買い物客の様子を写したもの

第6学年 国語 相手や目的に合わせて書こう「ガイドブックを作ろう」

【改善の方向】 ア (イ) 評価しながら読む能力の育成	
【読解力向上に向けた授業改善の視点】 ガイドブックから必要な情報を読み取ったり、内容や形式について、これまでの知識や経験と照らし合わせたりしながら、幅広い観点で評価しながら読む態度を育てたい。	
【テキスト】	《パンフレット》
	
	

C-1 3年 指導案

C-2 6年 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・「文章や資料を考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたりする場面を大切にする」ことが、読解力向上につながったと感じることができた。TK式学力検査「国語」の結果からも、どの学年も「読む力」と「書く力」が伸びていることが分かる。
- ・読書活動の実践を通して、学校での読書はもちろん、家庭で読書する児童も増え、読書の幅も広がった。読書活動を教育課程によって支えたことで、児童の豊かな読書生活を築くことができたと考える。
- ・読解力向上リテラシータイムや全校テスト、学年発表、家庭学習、生活習慣調査などの全校的活動推進部の取り組みによって、基礎的・基本的な学習内容が定着し、さらには、読み書きや発表の技能が高まり、読解力向上につながる基盤を作ることができた。
- ・日常の授業の中にも、「比較して読む」「理由をつけて自分の考えを述べる」など、読解力向上を意識した指導が自然な形で取り入れられるようになってきた。

(2) 課題

- ・児童には、「読む力」と「書く力」が徐々についてきたが、今後は、「聞く力」「言語についての知識・理解・技能」の育成にも力を入れながら、PISA型読解力向上の視点に沿って、「考える力を中核とした読む力と書く力の育成」に努めたい。
- ・児童は、考えながら書くことによって、自分の考えを持つようになってきたが、それを説得力を持って伝える力が十分ではないと感じる。伝える力を育てることが今後の課題である。

D-1 TK式学力検査「国語」の結果